

第 45 回「山形県内企業の景気動向調査」 確報

(平成 27 年 11 月調査)

～業況は引き続き停滞～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲10.6(前回調査比2.7ポイント下落)と**2期連続で悪化**した。「各種DI値(前年同期比)」をみると、すべての項目で悪化となった。中でも「売上高」が▲15.2(前回調査比7.3ポイント下落)と悪化幅が大きい。平成26年8月調査以降、「自社の業況DI値(前年同期比)」がマイナスで推移しており、消費税増税や円安による原材料価格の高騰、中国経済の減速などから、業況は悪化ないし停滞傾向にあるものと考えられる。
- **業種別**に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、建設業が▲24.7(前回調査比±0)、製造業が▲12.0(前回調査比13.5ポイント下落)、卸・小売業が▲13.7(前回調査比2.7ポイント下落)、サービス業が9.3(前回調査比9.3ポイント上昇)と、**製造業と卸・小売業が悪化**となった。中でも製造業の悪化幅が大きく、DI値が3期ぶりにマイナスに転じた。要因として、原材料価格の高騰が依然としてマイナスの影響を与えていることなどが考えられる。
- **地域別**に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、村山南部が▲10.4(前回調査比2.3ポイント下落)、村山北部が▲3.4(前回調査比8.7ポイント上昇)、最上が▲20.0(前回調査比6.7ポイント上昇)、置賜が▲12.5(前回調査比3.9ポイント下落)、庄内田川が▲17.9(前回調査比17.9ポイント下落)、庄内飽海が▲4.4(前回調査比3.2ポイント下落)と、**村山北部、最上で改善**したものの、**村山南部、置賜、庄内田川、庄内飽海で悪化**した。庄内田川ではDI値がマイナスに転じた。
- **先行き見通し**は「自社の業況DI値」が▲12.1(今回調査比1.5ポイント下落)と若干ながらさらに**悪化**の見込みとなっている。

【特別調査】

- **冬季ボーナス**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は55.7%(前年比1.2ポイント上昇)と、前年に比べて若干上昇した。

平成 27 年 12 月

株式会社 フィデア総合研究所

目次

I. 県内企業の業況	1
1. 概況	1
2. 業種別の動向	2
(1) 業種別の概況	2
(2) 業種別 D I 値の動向	3
① 建設業	3
② 製造業	5
③ 卸・小売業	7
④ サービス業	9
3. 地域別の動向	11
(1) 地域別の概況	11
(2) 地域別 D I 値の動向	12
① 村山南部	12
② 村山北部	13
③ 最上	14
④ 置賜	15
⑤ 庄内田川	16
⑥ 庄内飽海	17
II. 景気の天気予報図	18
III. 特別調査	19
1. 冬季ボーナスについて	19
(1) 支給予定動向	19
(2) 支給予定額	21
<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>	23
<参考資料 II : 調査の概要>	23

I. 県内企業の業況

1. 概況

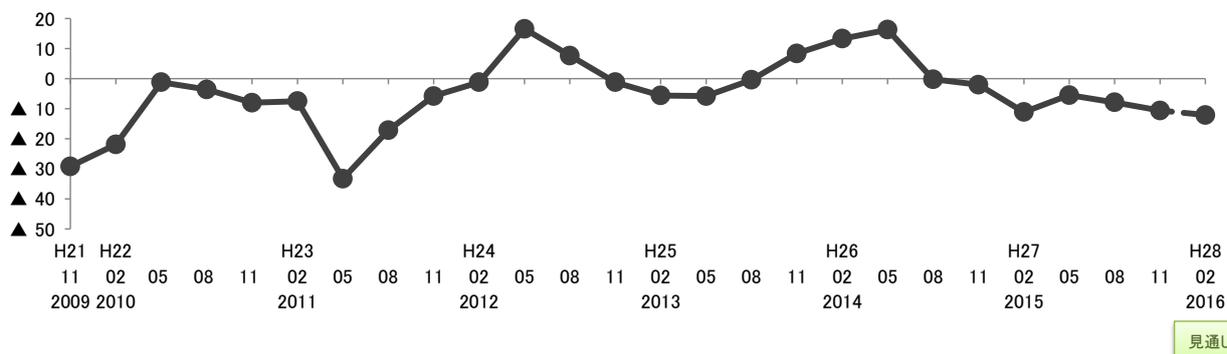
現況判断：景況感は引き続き停滞

県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲10.6（前回調査比2.7ポイント下落）と2期連続で悪化した。「各種DI値（前年同期比）」をみると、すべての項目で悪化となった。中でも「売上高」が▲15.2（前回調査比7.3ポイント下落）と悪化幅が大きい。平成26年8月調査以降、「自社の業況DI値（前年同期比）」がマイナスで推移しており、消費税増税や円安による原材料価格の高騰、中国経済の減速などから、業況は悪化ないし停滞傾向にあるものと考えられる。

来期の見通し：さらに悪化が見込まれる

先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲12.1（今回調査比1.5ポイント下落）と若干ながらさらに悪化の見込みとなっている。

図表 1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
H 26. 11 (n=442)	▲ 2.0	(▲ 1.8)	▲ 1.8	0.6	▲ 5.9	25.3	▲ 4.3
H 27. 02 (n=448)	▲ 11.1	(▲ 9.1)	▲ 14.5	▲ 11.0	▲ 12.0	17.0	▲ 9.0
H 27. 05 (n=442)	▲ 5.5	(5.6)	▲ 15.4	▲ 7.2	▲ 4.5	13.8	▲ 7.1
H 27. 08 (n=435)	▲ 7.9	(▲ 2.4)	▲ 15.1	▲ 7.9	▲ 10.9	17.9	▲ 6.2
H 27. 11 (n=440)	▲ 10.6	(▲ 2.7)	▲ 7.3	▲ 15.2	▲ 11.8	16.8	▲ 8.8
前回調査比	-	-	-	(▲ 7.3)	(▲ 0.9)	(▲ 1.1)	(▲ 2.6)
先行き見通し	▲ 12.1	-	-	▲ 12.8	▲ 17.3	21.2	▲ 16.8
今回調査比	(▲ 1.5)	-	-	(2.4)	(▲ 5.5)	(4.4)	(▲ 8.0)

※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

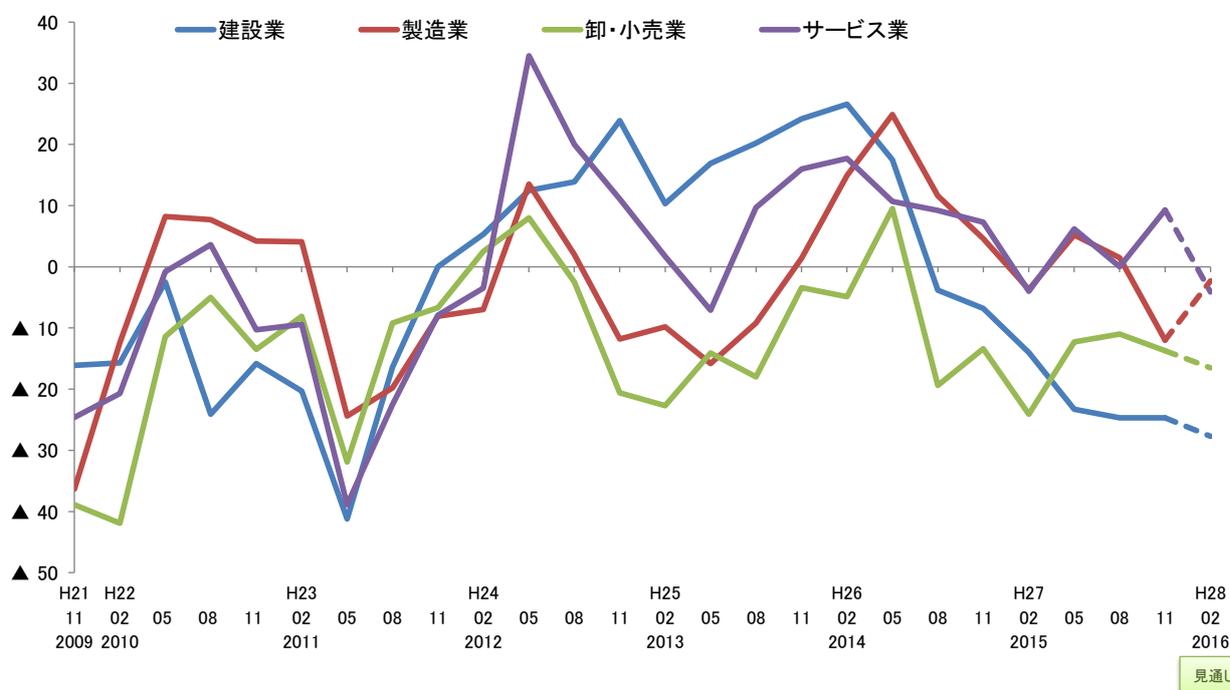
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲24.7（前回調査比±0）、製造業が▲12.0（前回調査比 13.5 ポイント下落）、卸・小売業が▲13.7（前回調査比 2.7 ポイント下落）、サービス業が 9.3（前回調査比 9.3 ポイント上昇）と、製造業と卸・小売業が悪化となった。中でも製造業の悪化幅が大きく、D I 値が 3 期ぶりにマイナスに転じた。要因として、原材料価格の高騰が依然としてマイナスの影響を与えていることなどが考えられる。

業況の先行き見通しは、製造業で改善が見込まれるものの、他の 3 業種で悪化の見込みとなっている。

図表 2 業種別「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26. 11 (n=442)	▲ 2.0	▲ 6.8	4.6	▲ 13.4	7.3
H 27. 02 (n=448)	▲ 11.1	▲ 14.0	▲ 3.7	▲ 24.1	▲ 4.0
H 27. 05 (n=442)	▲ 5.5	▲ 23.3	5.2	▲ 12.3	6.2
H 27. 08 (n=435)	▲ 7.9	▲ 24.7	1.5	▲ 11.0	0.0
H 27. 11 (n=440)	▲ 10.6	▲ 24.7	▲ 12.0	▲ 13.7	9.3
前回調査比	(▲ 2.7)	(0.0)	(▲ 13.5)	(▲ 2.7)	(9.3)
先行き見通し	▲ 12.1	▲ 27.7	▲ 2.3	▲ 16.5	▲ 4.1
今回調査比	(▲ 1.5)	(▲ 3.0)	(9.7)	(▲ 2.8)	(▲ 13.4)

(2) 業種別 D I 値の動向

① 建設業

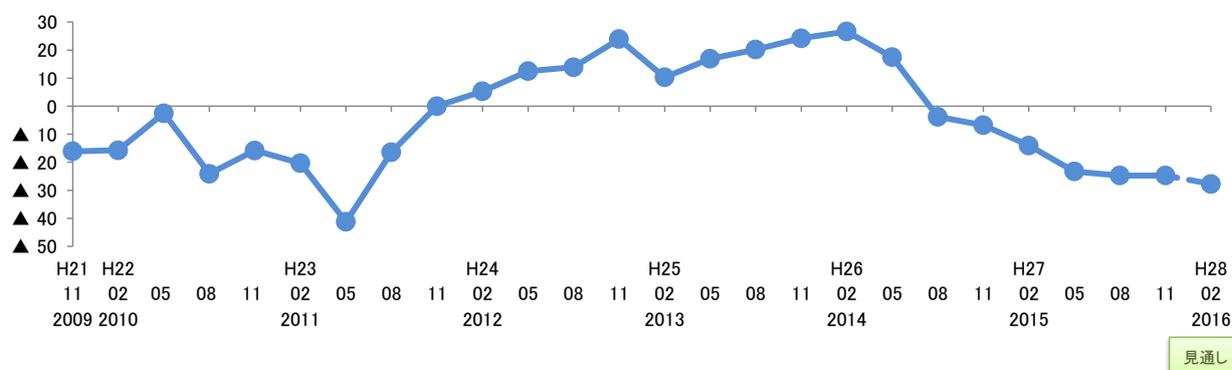
現況判断：横ばい

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲24.7（前回調査比±0）と横ばいとなった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「完成工事高」「資金繰り」が悪化となり、「営業利益」「手持工事高」「人員・人手」が若干改善となっている。「人員・人手」を除き、各種 D I 値はマイナスで推移しており、業況は低調に推移している。要因として、公共工事の減少傾向などが考えられる。また、慢性的な人手不足と従業員の高齢化に不安感を抱える企業が少なからずみられる。

来期の見通し：悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲27.7（今回調査比 3.0 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

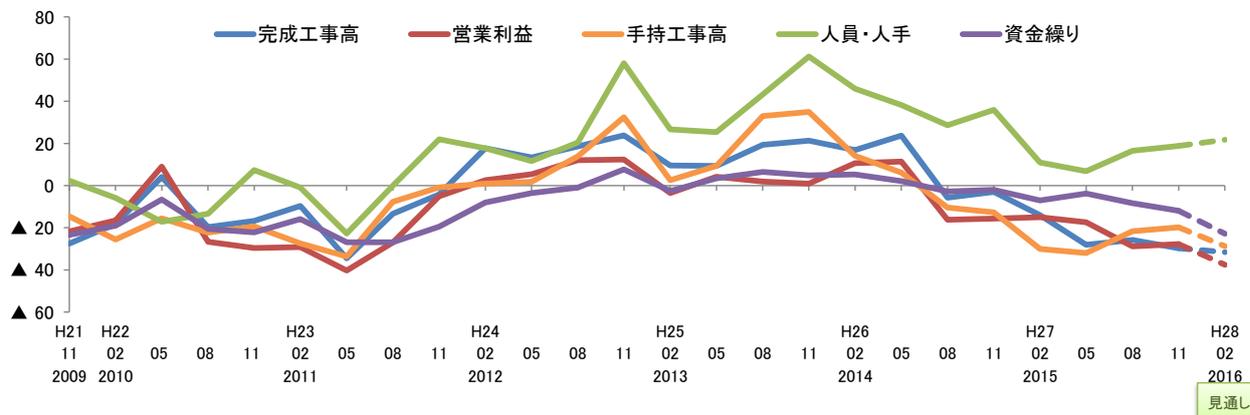
図表 3 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
H 26.11 (n=103)	▲ 6.8	(▲ 3.0)	0.0	▲ 3.0	▲ 15.6	▲ 12.7	35.9	▲ 2.0
H 27.02 (n=100)	▲ 14.0	(▲ 7.2)	▲ 24.2	▲ 14.0	▲ 15.0	▲ 30.0	11.0	▲ 7.0
H 27.05 (n=103)	▲ 23.3	(▲ 9.3)	▲ 27.0	▲ 28.1	▲ 17.4	▲ 32.0	6.8	▲ 3.8
H 27.08 (n=97)	▲ 24.7	(▲ 1.4)	▲ 40.8	▲ 25.8	▲ 28.8	▲ 21.6	16.5	▲ 8.3
H 27.11 (n=101)	▲ 24.7	(0.0)	▲ 20.6	▲ 29.7	▲ 27.8	▲ 19.8	18.8	▲ 11.9
	前回調査比	-	-	(▲ 3.9)	(1.0)	(1.8)	(2.3)	(▲ 3.6)
先行き見通し	▲ 27.7	-	-	▲ 31.6	▲ 37.6	▲ 28.7	21.8	▲ 22.8
	今回調査比	(▲ 3.0)	-	(▲ 1.9)	(▲ 9.8)	(▲ 8.9)	(3.0)	(▲ 10.9)

図表 4 建設業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 公共工事の発注額が減少しているし、住宅の新築工事は大手のハウスメーカーに対抗するのは難しい。(村山北)
- 民間建築工事が好調だが、競争が激しく利益率は低下している。(最上)
- 今期は比較的大型工事の受注が多く状況は良好だが、業界としては全体的に前期より工事量が減少傾向にあると思われる。(置賜)
- 職人不足が著しいので、希望通りに、また予定通りに仕事が取れない(進まない)。それにかからんで人件費高騰、資材高騰で適正受注ができない。よって売り上げにならず、利益も確保できないことから、企業存続が難しいところが出てくるのではないか。(置賜)
- 公共工事が激減している。特に受注競争が激しく受注しても利益の確保が厳しい。(庄内田川)
- 地域経済は依然として冷え切っている。公共工事の減少が大きく影響している。地方では経済政策の効果を感じられない。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 現場オペレーターの高齢化が進んできており、若手の育成と新規採用が課題で、人材育成を進めている。一方、採用の求人を出しても、応募者がほとんどない状況が続いている。(村山南)
- 大型工事の繰越などがあり、来年度中盤までは忙しい状況が続くが、後半は厳しい予想。(村山南)
- 県外での受注に頼らざるを得ない。県外へ労働者を流出させる予定である。(最上)
- 新築工事が目立っているように感じるので、消費税が 10%になる前に工事をする人が多くなっているのかもしれない。(置賜)
- 東京オリンピックにかからんで関東地方および太平洋側で受注できる体制にしていく必要があると思う。そのための下準備を、来年度の課題として取り組み、早く実行できるよう進めたい(庄内飽海)

② 製造業

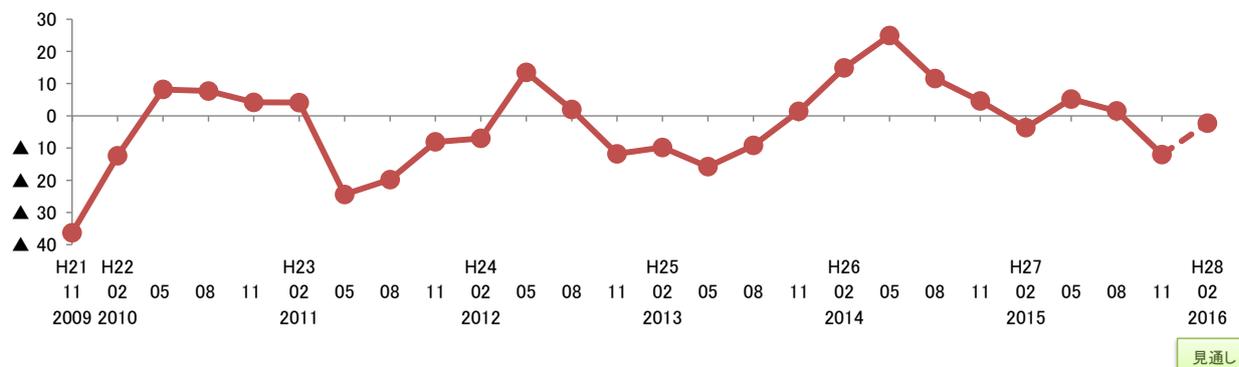
現況判断：大幅に悪化

「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲12.0（前回調査比 13.5 ポイント下落）と大幅に悪化し、DI値が3期ぶりにマイナスに転じた。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「仕入価格」「人員・人手」が改善しているものの、その他の4項目が悪化となった。また、「仕入価格」は今回調査で2期連続の改善となったものの、他の項目に比べて低水準で推移しており、依然として原材料価格の高騰が大きく影響している状況がうかがえる。

来期の見通し：改善が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲2.3（今回調査比 9.7 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

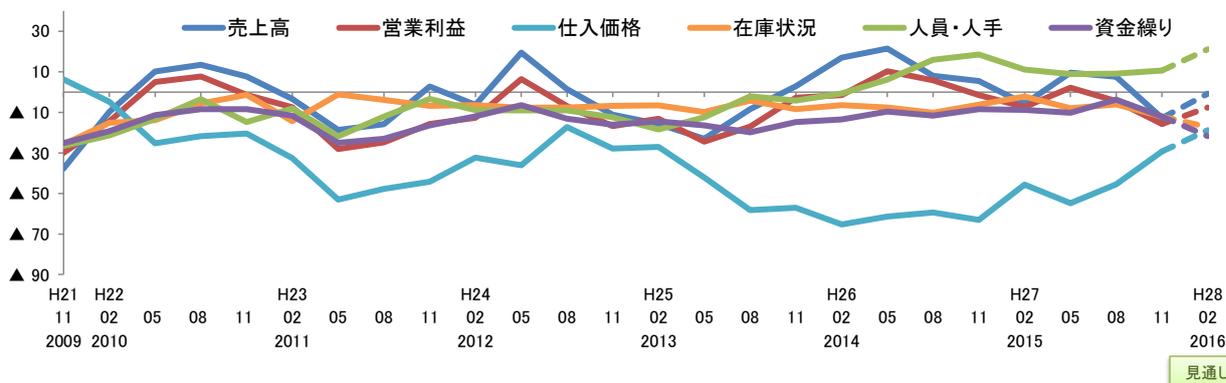
図表 5 製造業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 26. 11 (n=130)	4.6	(▲ 7.0)	7.9	5.4	▲ 1.5	▲ 63.1	▲ 6.2	18.5	▲ 8.5
H 27. 02 (n=136)	▲ 3.7	(▲ 8.3)	▲ 6.1	▲ 5.9	▲ 7.4	▲ 45.6	▲ 2.2	11.1	▲ 8.8
H 27. 05 (n=137)	5.2	(8.9)	▲ 3.7	9.5	2.2	▲ 54.8	▲ 8.0	8.8	▲ 10.2
H 27. 08 (n=132)	1.5	(▲ 3.7)	1.4	7.6	▲ 4.5	▲ 45.5	▲ 6.1	9.1	▲ 3.8
H 27. 11 (n=133)	▲ 12.0	(▲ 13.5)	1.5	▲ 12.8	▲ 15.8	▲ 29.3	▲ 12.1	10.6	▲ 12.1
前回調査比	-	-	-	(▲ 20.4)	(▲ 11.3)	(16.2)	(▲ 6.0)	(1.5)	(▲ 8.3)
先行き見通し	▲ 2.3	-	-	▲ 0.8	▲ 7.6	▲ 18.8	▲ 17.3	21.1	▲ 21.8
今回調査比	(9.7)	-	-	(12.0)	(8.2)	(10.5)	(▲ 5.2)	(10.5)	(▲ 9.7)

図表 6 製造業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- ここ数年売り上げは横ばいで推移している。自動車部品などは減少しているが、特殊な分野に注力している結果、減少分を横ばいまで戻している状況である。(村山南)
- ドル建て仕入れが多いため、過度な円安は損益に影響してくる。(村山北)
- 新規客先の売り上げ増にて、今期の売り上げ増を期待していたが、既存客先の売り上げ減で相殺となり、前年同期とほぼ同じ売り上げとなった。(置賜)
- 円安は食品業界にとってはメリットがない。国産原料も人手不足のせいか、原料価格が上がっている。コストアップを販売価格に転嫁しにくく、転嫁が遅れている。特に OEM 商品は実施しにくい。(置賜)
- 単価引き下げ、少量多品種の受注に対応している状況が続いている。見通しは楽観できない。(庄内田川)

Q. 来期の見通しや対策について

- 利益を捻出するため、商品の規格改訂(値上げ)や社内経費の削減を実施する。(村山南)
- 先物為替予約により、円安のリスクヘッジをする。(村山北)
- 新機種、高レベル商品など国内に戻ってきている生産品が、少しずつ多くなっている。これが本格国内生産になってほしい。(村山北)
- 製造の原価低減を継続して行っている。設備投資は控えめであり、修理や改修で間に合わせる形が多い。(最上)
- 来期以降、仕事量は増加するが、鋼材市況の低迷により収益的には前期より利益率で2%程度ダウンすると思われる。(庄内田川)
- 今後は自社製品の他に OEM 製品の生産比率を高め、年間売上高の確保に努める。(庄内田川)

③ 卸・小売業

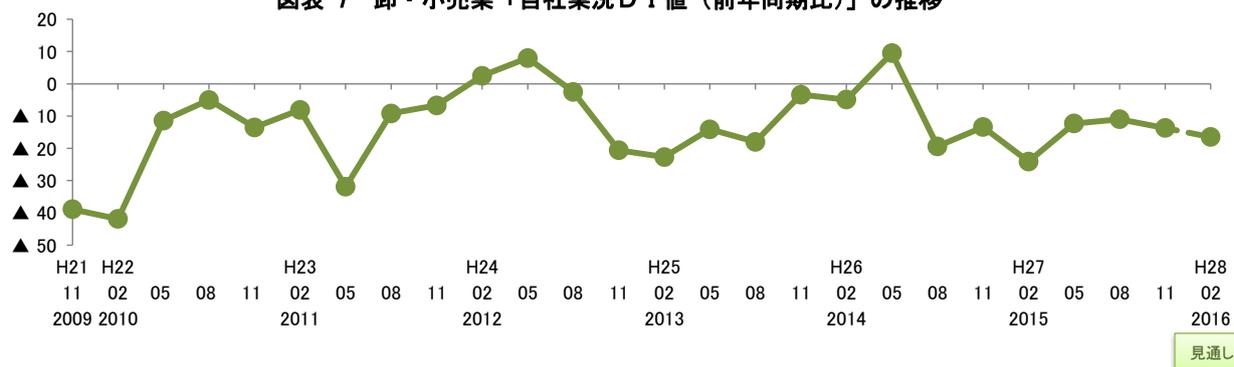
現況判断：若干悪化

「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲13.7（前回調査比 2.7 ポイント下落）と、若干悪化となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「営業利益」が横ばいとなったものの、その他の 5 項目が悪化している。中でも「売上高」の悪化幅が大きい。要因として消費の低迷などが考えられ、建築材料関連の卸売業などで低調な状況がうかがえる。

来期の見通し：さらに悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、▲16.5（今回調査比 2.8 ポイント下落）とさらに悪化の見込みとなっている。

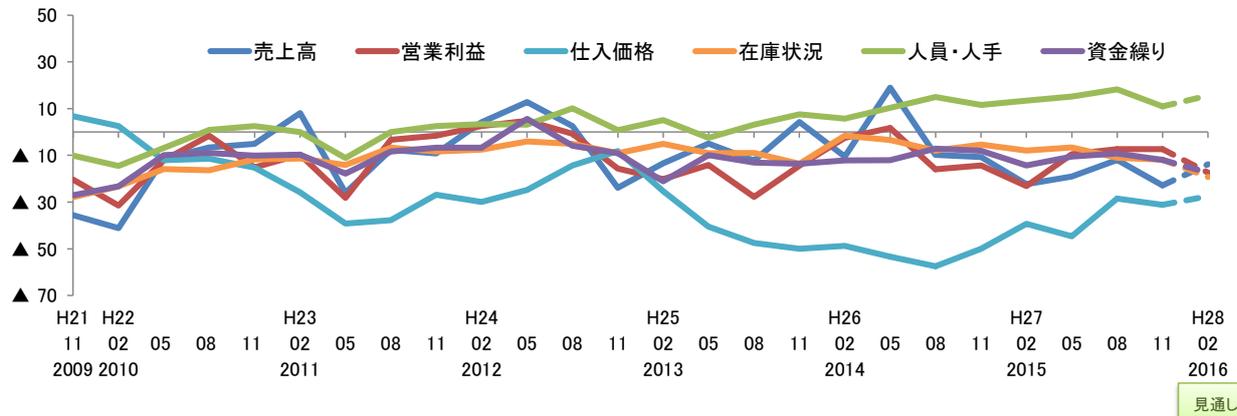
図表 7 卸・小売業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 26. 11 (n=112)	▲ 13.4	(6.0)	▲ 17.7	▲ 10.7	▲ 14.3	▲ 50.0	▲ 5.4	11.6	▲ 8.1
H 27. 02 (n=112)	▲ 24.1	(▲ 10.7)	▲ 16.1	▲ 22.3	▲ 23.2	▲ 39.3	▲ 8.0	13.4	▲ 14.3
H 27. 05 (n=105)	▲ 12.3	(11.8)	▲ 24.1	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 44.7	▲ 6.6	15.2	▲ 10.5
H 27. 08 (n=109)	▲ 11.0	(1.3)	▲ 14.3	▲ 12.0	▲ 7.3	▲ 28.5	▲ 11.0	18.3	▲ 9.2
H 27. 11 (n=109)	▲ 13.7	(▲ 2.7)	▲ 9.2	▲ 22.9	▲ 7.3	▲ 31.2	▲ 11.9	11.0	▲ 12.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 10.9)	(0.0)	(▲ 2.7)	(▲ 0.9)	(▲ 7.3)	(▲ 2.8)
先行き見通し	▲ 16.5	-	-	▲ 13.8	▲ 17.4	▲ 27.5	▲ 19.3	15.6	▲ 17.4
今回調査比	(▲ 2.8)	-	-	(9.1)	(▲ 10.1)	(3.7)	(▲ 7.4)	(4.6)	(▲ 5.4)

図表 8 卸・小売業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 4~7月まで販売商品の値上げをした影響か、消費が停滞した。8月中旬から徐々に回復し、現在は前年度の消費量に戻りつつある。(村山南)
- 円安による原料価格の上昇を製品価格へ一部転嫁してきたものの、値上げ品の荷動きは鈍く、価格転嫁は限界と思われる。燃料関係の経費が一段落しているものの、人件費の最低賃金などは上昇しているため、厳しい環境に変わりはない。(村山南)
- イオンモール天童の出店により、土日の消費者動線が変わって、売り上げに影響している。(村山北)
- 小額な動きしかなく、数も前年並みかそれ以下なので、なかなか良いとは言えない。(置賜)
- プレミアム商品券の発行が各地であったが、消費の微増は感じられるものの消費拡大にはつながっていない。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 今後も仕入価格の値上がりは止まらず、外食業界の冷え込みにも回復の兆しはまだない。お客様に状況を理解いただき、必要な利益の得られる価格での取引を行った上で、現状打破のための役立つ新提案を続ける必要がある。(村山南)
- 資金繰りは依然として苦しいが、イベントをすれば通常より売り上げがあるので、寒くなる前に少しでも売り上げを作りたい。冬は毎年売り上げが減り、厳しくなる。(最上)
- お客様は消費税 10%になる前から節約志向にあるので、今後ますます厳しい状況となりそうだ。無駄をなくし、効率よく動く工夫がさらに必要と感じる。(置賜)
- 長引く不況でお客様の節約傾向を強く感じる。適正価格で安定経営を目指したいが、周辺の手回しの熾烈な価格競争に巻き込まれそうで心配である。(置賜)
- 来期は暖房シーズンに入るが、灯油等の単価が下がっているので、需要増が見込まれる。(庄内田川)

④ サービス業

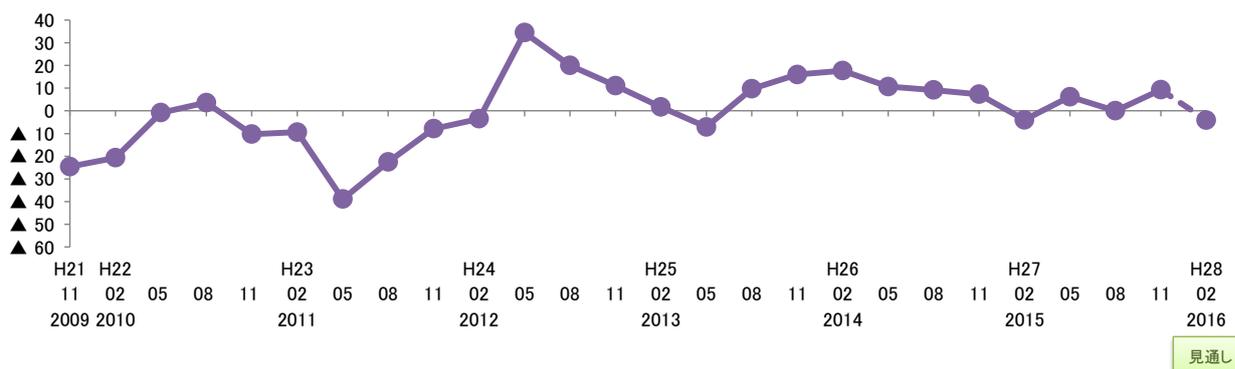
現況判断：一進一退

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 9.3（前回調査比 9.3 ポイント上昇）と、改善となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「人員・人手」のみ若干悪化となり、「売上高」「営業利益」「資金繰り」が改善した。要因として、燃料費の下落傾向による運送業の業況回復などが考えられる。

来期の見通し：悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲4.1（今回調査比 13.4 ポイント下落）と D I 値がマイナスに転じる見込みとなっている。

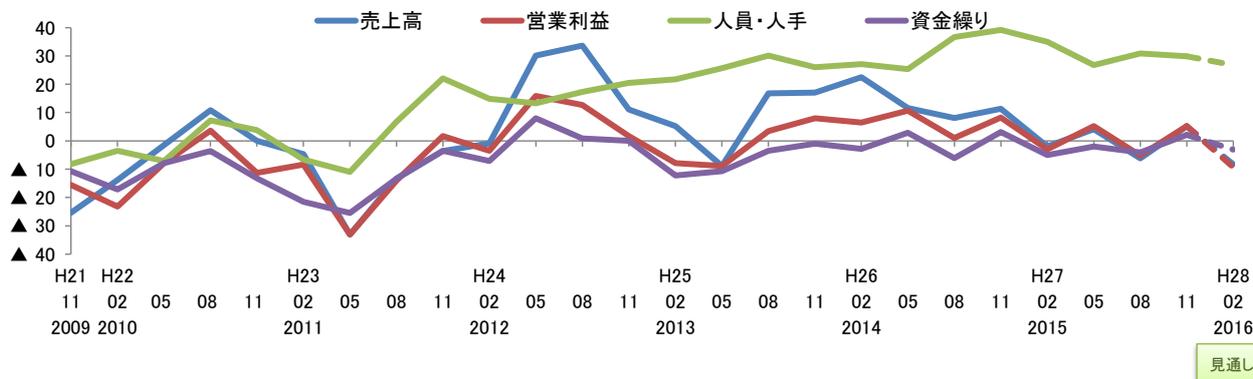
図表 9 サービス業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

サービス業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 26. 11 (n=97)	7.3	(▲ 1.9)	1.0	11.3	8.2	39.2	3.1
H 27. 02 (n=100)	▲ 4.0	(▲ 11.3)	▲ 13.4	▲ 2.0	▲ 3.0	35.0	▲ 5.0
H 27. 05 (n=97)	6.2	(10.2)	▲ 10.0	4.1	5.2	26.8	▲ 2.0
H 27. 08 (n=97)	0.0	(▲ 6.2)	▲ 12.3	▲ 6.2	▲ 5.2	30.9	▲ 4.1
H 27. 11 (n=97)	9.3	(9.3)	▲ 4.1	5.1	5.2	29.9	2.1
前回調査比	-	-	-	(11.3)	(10.4)	(▲ 1.0)	(6.2)
先行き見通し	▲ 4.1	-	-	▲ 8.3	▲ 9.3	26.8	▲ 3.1
今回調査比	(▲ 13.4)	-	-	(▲ 13.4)	(▲ 14.5)	(▲ 3.1)	(▲ 5.2)

図表 10 サービス業「各種DI値（前年同期比）」の推移



見通し

Q. 今期の業況について

業界の声

- 円安の影響もなく、原油安から軽油燃料価格が低下し、営業利益が増加している。低迷していたセメント輸送が増加しており、売り上げは増加傾向にある。(村山南)
- 同業他社との競争が熾烈化を極めており、利益率が極めて低くなっている。(村山南)
- 入札等価格競争や、最低賃金アップによる人件費の増加傾向で、収益力は低下傾向にある。(村山南)
- 消費税の一段上げも視野に入り、住宅業界は賑やかな雰囲気である。9月の決算も終わり、まずまずの業績である。(庄内田川)
- マイナンバーの駆け込み需要が少なく、民需は苦戦している。(庄内飽海)
- 増税後のトレンドであった単価減が一転し、高単価で収益の取れる売り上げ構成となってきている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 首都圏オフィス開設に向けた準備をしている。(村山南)
- 新しいブランドの商品開発に取り組んでおり、インターネットで販売を計画している。(最上)
- 人手不足による受注の選別が起きているため、業界としては良い傾向であると思う。来期も同様の動きになると思うが、燃料の動向が不透明なため、楽観はできない。(庄内田川)
- 企業体質として、急激な売り上げの増減も想定できないため、経年劣化による設備の補修を行いながら、着実に利益を計上したい。(庄内飽海)
- 消費税増税前の駆け込みはあるだろうが、8%になったのがここ最近のため、来期の消費も厳しいだろう。(庄内飽海)

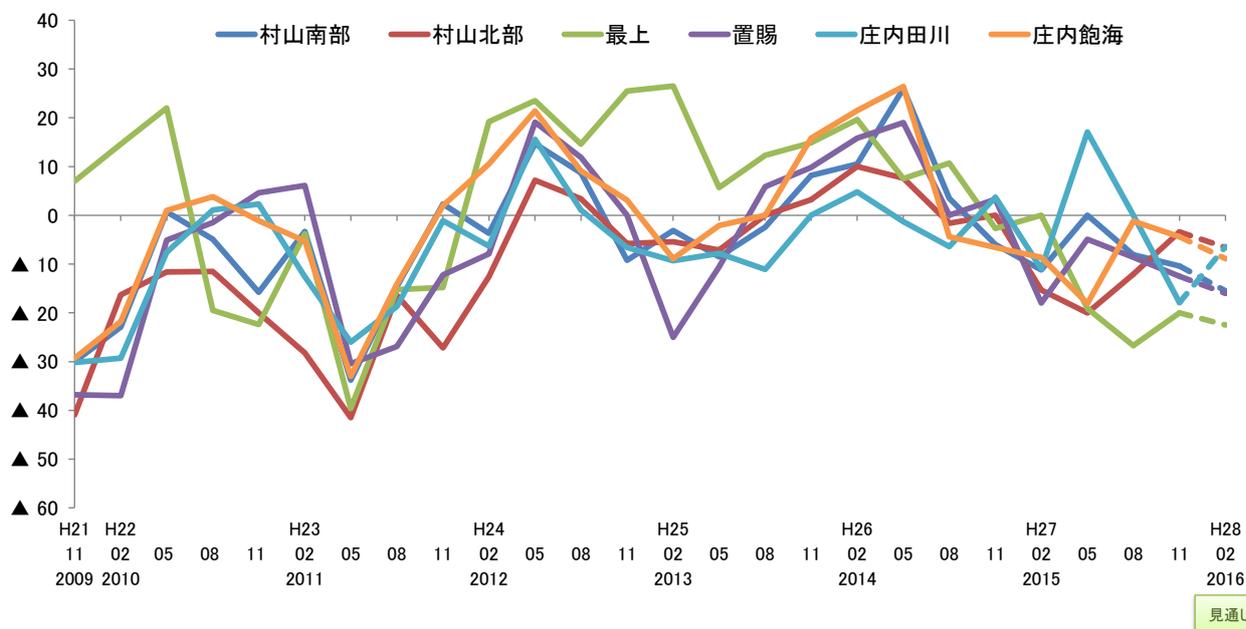
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲10.4（前回調査比 2.3 ポイント下落）、村山北部が▲3.4（前回調査比 8.7 ポイント上昇）、最上が▲20.0（前回調査比 6.7 ポイント上昇）、置賜が▲12.5（前回調査比 3.9 ポイント下落）、庄内田川が▲17.9（前回調査比 17.9 ポイント下落）、庄内飽海が▲4.4（前回調査比 3.2 ポイント下落）と、村山北部、最上で改善したものの、村山南部、置賜、庄内田川、庄内飽海で悪化した。庄内田川ではDI値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しをみると、庄内田川を除く 5 地域で悪化の見込みとなっている。

図表 11 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
H 26. 11 (n=442)	▲ 2.0	▲ 6.0	0.0	▲ 2.7	3.3	3.7	▲ 6.6
H 27. 02 (n=448)	▲ 11.1	▲ 11.2	▲ 15.3	0.0	▲ 18.0	▲ 11.0	▲ 8.6
H 27. 05 (n=442)	▲ 5.5	0.0	▲ 20.0	▲ 19.1	▲ 4.9	17.1	▲ 18.1
H 27. 08 (n=435)	▲ 7.9	▲ 8.1	▲ 12.1	▲ 26.7	▲ 8.6	0.0	▲ 1.2
H 27. 11 (n=440)	▲ 10.6	▲ 10.4	▲ 3.4	▲ 20.0	▲ 12.5	▲ 17.9	▲ 4.4
前回調査比	(▲ 2.7)	(▲ 2.3)	(8.7)	(6.7)	(▲ 3.9)	(▲ 17.9)	(▲ 3.2)
先行き見通し	▲ 12.1	▲ 15.5	▲ 6.6	▲ 22.5	▲ 16.0	▲ 6.4	▲ 8.9
今回調査比	(▲ 1.5)	(▲ 5.1)	(▲ 3.2)	(▲ 2.5)	(▲ 3.5)	(11.5)	(▲ 4.5)

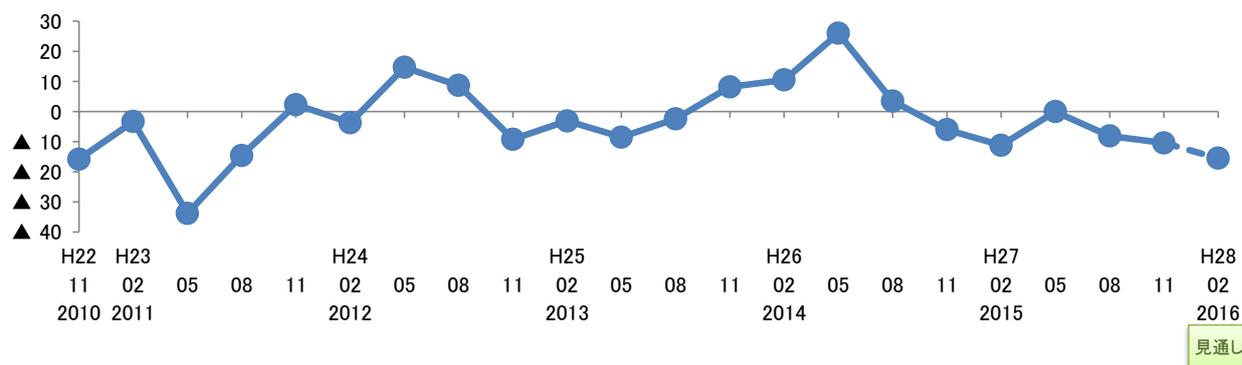
(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

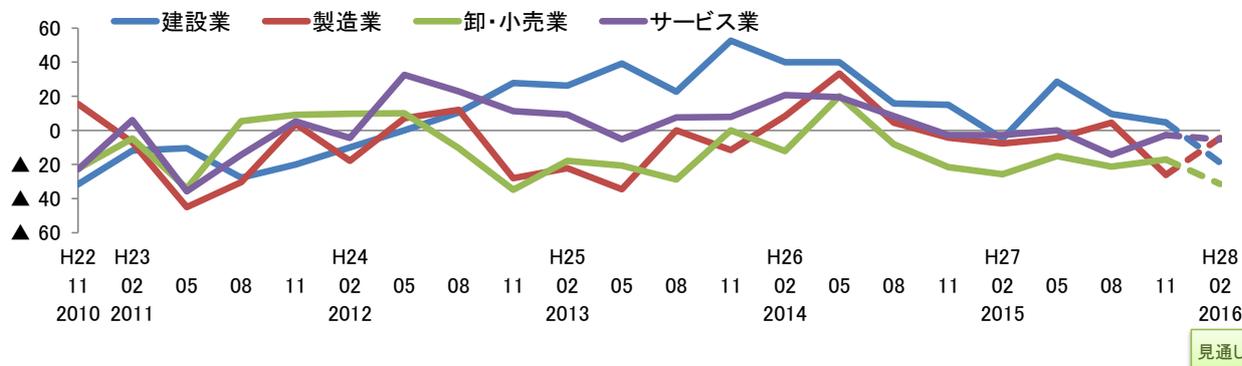
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲10.4（前回調査比 2.3 ポイント下落）と 2 期連続で悪化となった。業種別にみると、建設業と製造業で悪化となり、中でも製造業の悪化幅が大きい。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲15.5（今回調査比 5.1 ポイント下落）とさらに悪化の見込みとなっている。

図表 12 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 13 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

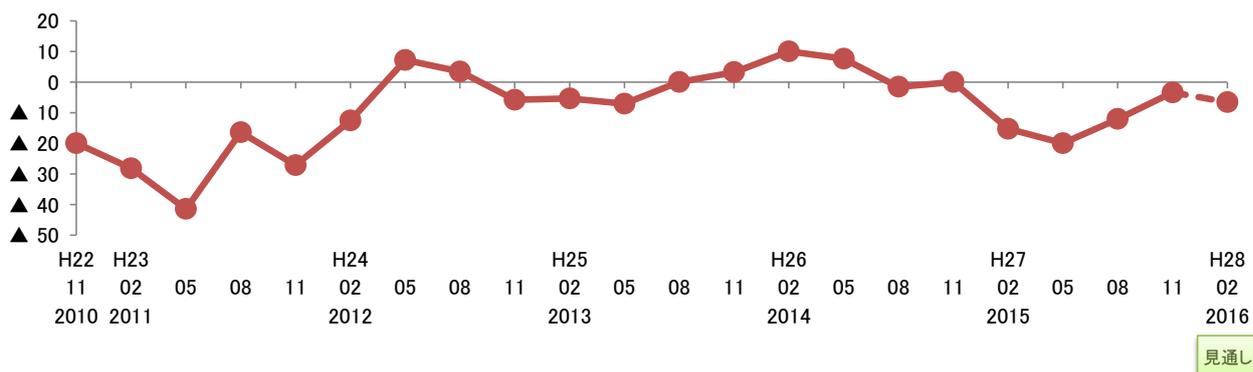
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26. 11 (n=117)	▲ 6.0	(▲ 9.5)	0.0	15.0	▲ 4.3	▲ 21.6	▲ 2.7
H 27. 02 (n=116)	▲ 11.2	(▲ 5.2)	▲ 6.8	▲ 5.0	▲ 7.7	▲ 25.7	▲ 2.8
H 27. 05 (n=113)	0.0	(11.2)	▲ 13.7	28.6	▲ 4.6	▲ 15.1	0.0
H 27. 08 (n=111)	▲ 8.1	(▲ 8.1)	▲ 15.9	9.5	4.5	▲ 21.2	▲ 14.3
H 27. 11 (n=116)	▲ 10.4	(▲ 2.3)	▲ 1.8	4.7	▲ 26.1	▲ 17.1	▲ 2.7
前回調査比	-	-	-	(▲ 4.8)	(▲ 30.6)	(4.1)	(11.6)
先行き見通し	▲ 15.5	-	-	▲ 19.0	▲ 4.4	▲ 31.4	▲ 5.4
今回調査比	(▲ 5.1)	-	-	(▲ 23.7)	(21.7)	(▲ 14.3)	(▲ 2.7)

② 村山北部

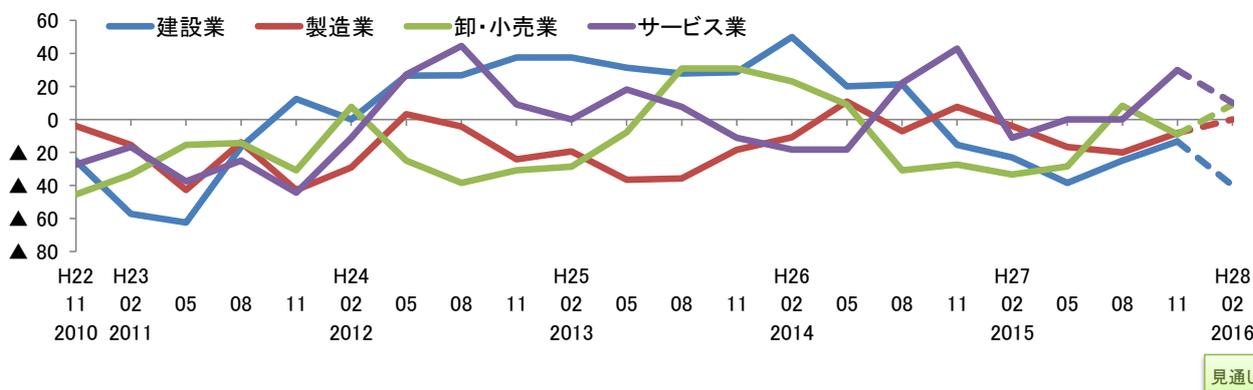
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲3.4（前回調査比 8.7 ポイント上昇）と 2 期連続で改善した。業種別にみると、卸・小売業のみ悪化となり、他の 3 業種で改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲6.6（今回調査比 3.2 ポイント下落）と悪化に転じる見込みとなっている。

図表 14 村山北部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 15 村山北部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

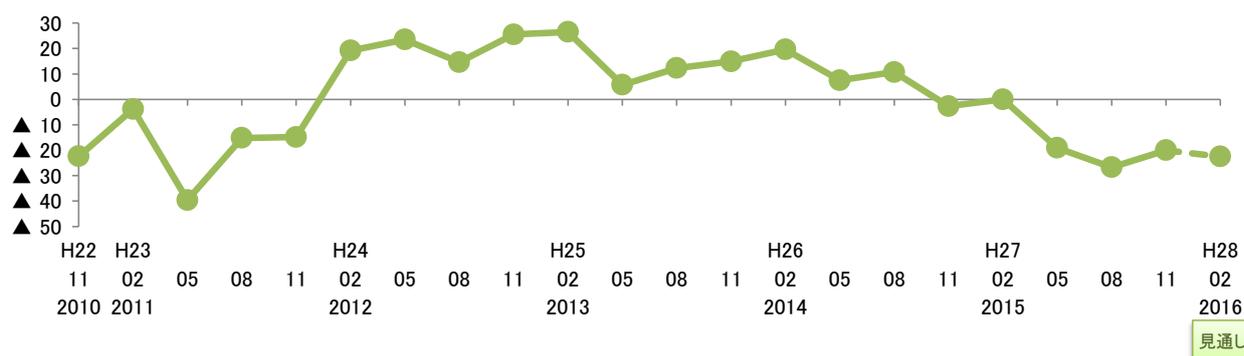
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26. 11 (n=57)	0.0	(1.6)	9.3	▲ 15.4	7.7	▲ 27.3	42.9
H 27. 02 (n=59)	▲ 15.3	(▲ 15.3)	▲ 15.8	▲ 23.1	▲ 4.0	▲ 33.4	▲ 11.1
H 27. 05 (n=55)	▲ 20.0	(▲ 4.7)	▲ 23.7	▲ 38.5	▲ 16.6	▲ 28.5	0.0
H 27. 08 (n=58)	▲ 12.1	(7.9)	▲ 14.6	▲ 25.0	▲ 20.0	8.3	0.0
H 27. 11 (n=60)	▲ 3.4	(8.7)	▲ 3.4	▲ 13.3	▲ 8.3	▲ 9.1	30.0
前回調査比	-	-	-	(11.7)	(11.7)	(▲ 17.4)	(30.0)
先行き見通し	▲ 6.6	-	-	▲ 40.0	0.0	9.1	10.0
今回調査比	(▲ 3.2)	-	-	(▲ 26.7)	(8.3)	(18.2)	(▲ 20.0)

③ 最上

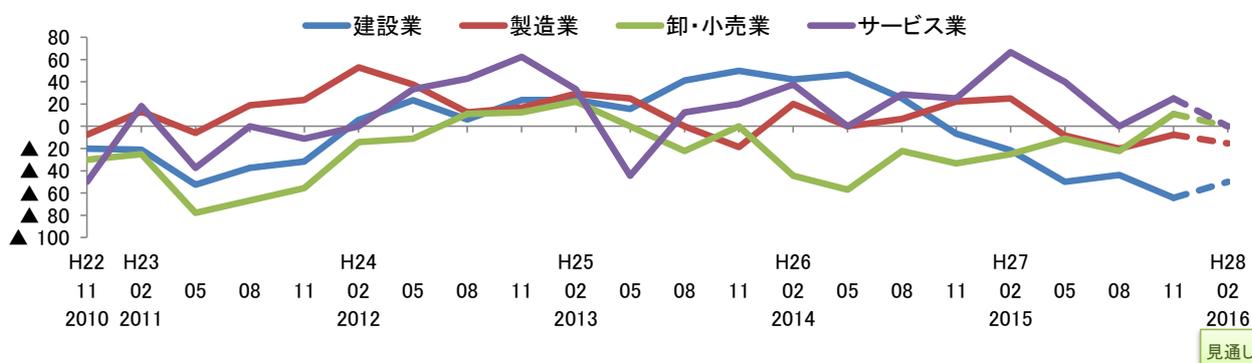
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲20.0（前回調査比 6.7 ポイント上昇）と 3 期ぶりに改善したものの、低水準で推移している。業種別にみると、製造業、卸・小売業、サービス業で大幅に改善した。一方で、建設業で大幅に悪化している。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲22.5（今回調査比 2.5 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 16 最上「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 17 最上「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

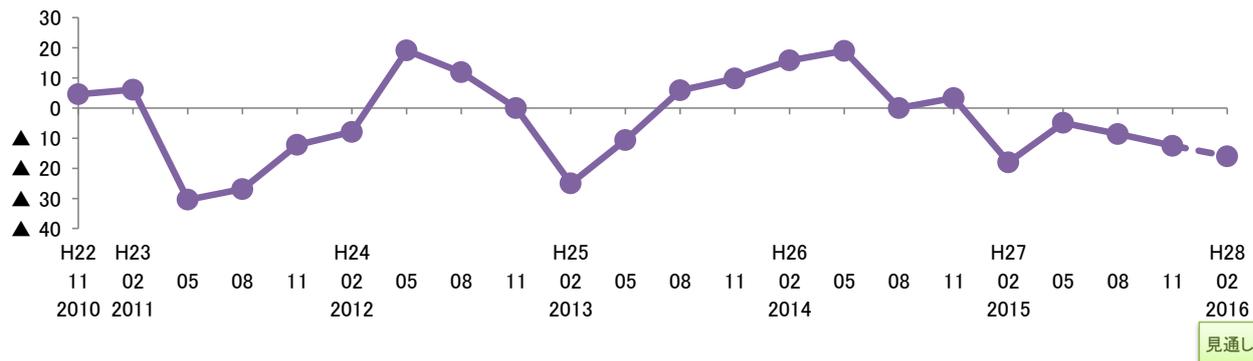
最上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26. 11 (n=37)	▲ 2.7	(▲ 13.4)	4.2	▲ 6.7	22.2	▲ 33.4	25.0
H 27. 02 (n=37)	0.0	(2.7)	▲ 16.2	▲ 21.5	25.0	▲ 25.0	66.7
H 27. 05 (n=42)	▲ 19.1	(▲ 19.1)	▲ 24.3	▲ 50.0	▲ 8.3	▲ 11.1	40.0
H 27. 08 (n=45)	▲ 26.7	(▲ 7.6)	▲ 31.0	▲ 43.7	▲ 20.0	▲ 22.2	0.0
H 27. 11 (n=40)	▲ 20.0	(6.7)	0.0	▲ 64.3	▲ 7.7	11.1	25.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 20.6)	(12.3)	(33.3)	(25.0)
先行き見通し	▲ 22.5	-	-	▲ 50.0	▲ 15.4	0.0	0.0
今回調査比	(▲ 2.5)	-	-	(14.3)	(▲ 7.7)	(▲ 11.1)	(▲ 25.0)

④ 置 賜

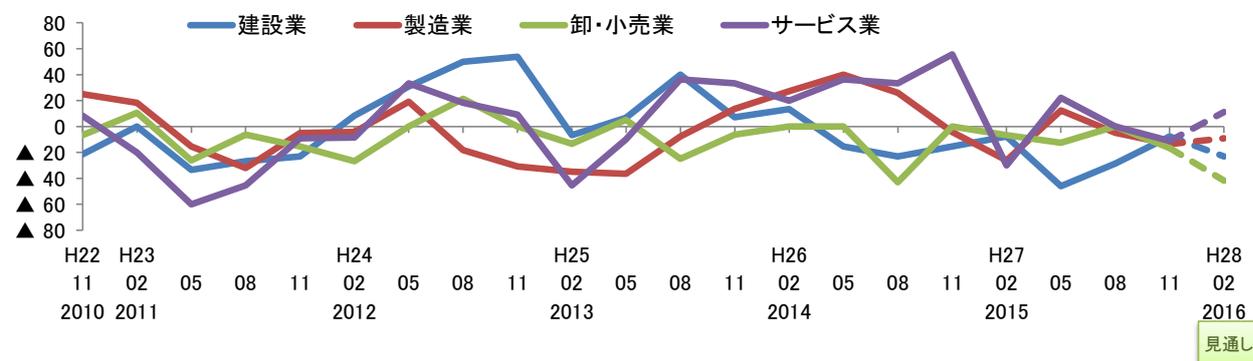
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲12.5（前回調査比 3.9 ポイント下落）と 2 期連続で悪化した。業種別にみると、建設業で大幅に改善したものの、その他の 3 業種で悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲16.0（今回調査比 3.5 ポイント下落）とさらに悪化の見込みとなっている。

図表 18 置賜「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 19 置賜「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

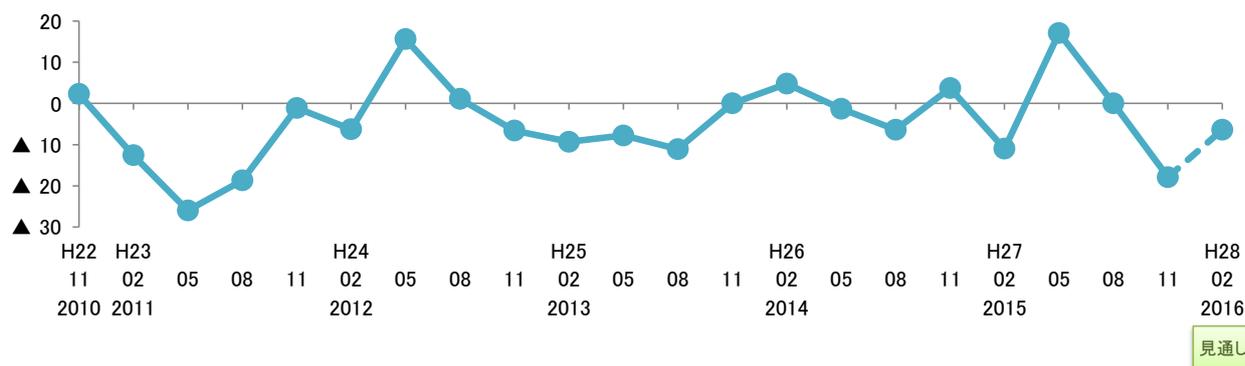
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26. 11 (n=61)	3.3	(3.3)	▲ 5.1	▲ 15.4	▲ 4.3	0.0	55.6
H 27. 02 (n=61)	▲ 18.0	(▲ 21.3)	▲ 14.7	▲ 7.7	▲ 26.1	▲ 6.6	▲ 30.0
H 27. 05 (n=62)	▲ 4.9	(13.1)	▲ 4.9	▲ 46.1	12.5	▲ 12.5	22.2
H 27. 08 (n=58)	▲ 8.6	(▲ 3.7)	▲ 3.2	▲ 28.6	▲ 4.8	0.0	0.0
H 27. 11 (n=56)	▲ 12.5	(▲ 3.9)	▲ 8.6	▲ 7.7	▲ 13.6	▲ 16.6	▲ 11.1
前回調査比	-	-	-	(20.9)	(▲ 8.8)	(▲ 16.6)	(▲ 11.1)
先行き見通し	▲ 16.0	-	-	▲ 23.1	▲ 9.1	▲ 41.7	11.1
今回調査比	(▲ 3.5)	-	-	(▲ 15.4)	(4.5)	(▲ 25.1)	(22.2)

⑤ 庄内田川

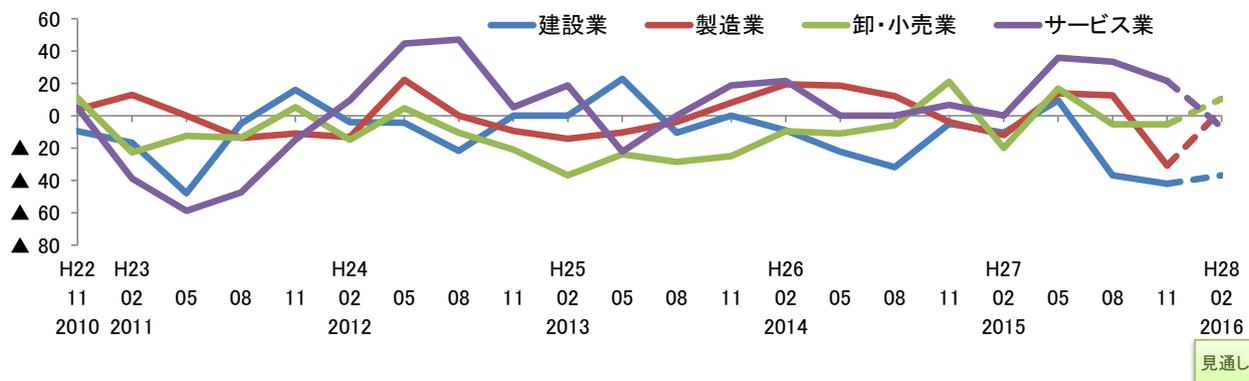
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲17.9（前回調査比 17.9 ポイン下落）と2期連続で大幅に悪化となった。業種別にみると、卸・小売業で横ばいとなったものの、その他の3業種で悪化となり、中でも製造業の悪化幅が大きくなっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲6.4（今回調査比 11.5 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 20 庄内田川「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 21 庄内田川「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

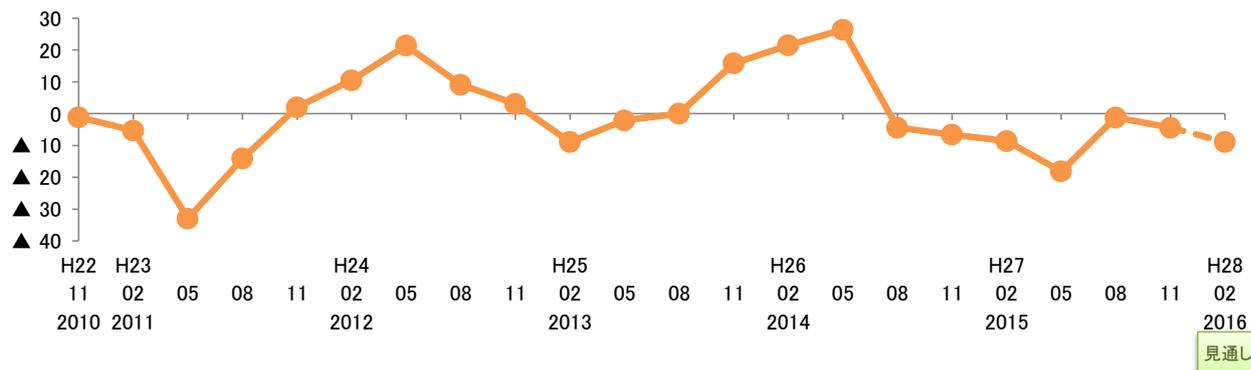
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26. 11 (n=80)	3.7	(10.1)	1.3	▲ 5.0	▲ 3.8	21.0	6.7
H 27. 02 (n=82)	▲ 11.0	(▲ 14.7)	▲ 15.0	▲ 10.5	▲ 12.0	▲ 20.0	0.0
H 27. 05 (n=82)	17.1	(28.1)	▲ 18.3	9.5	13.8	16.7	35.8
H 27. 08 (n=77)	0.0	(▲ 17.1)	▲ 9.8	▲ 36.8	12.5	▲ 5.3	33.4
H 27. 11 (n=78)	▲ 17.9	(▲ 17.9)	▲ 19.5	▲ 42.1	▲ 30.8	▲ 5.3	21.5
前回調査比	-	-	-	(▲ 5.3)	(▲ 43.3)	(0.0)	(▲ 11.9)
先行き見通し	▲ 6.4	-	-	▲ 36.8	3.8	10.5	▲ 7.1
今回調査比	(11.5)	-	-	(5.3)	(34.6)	(15.8)	(▲ 28.6)

⑥ 庄内飽海

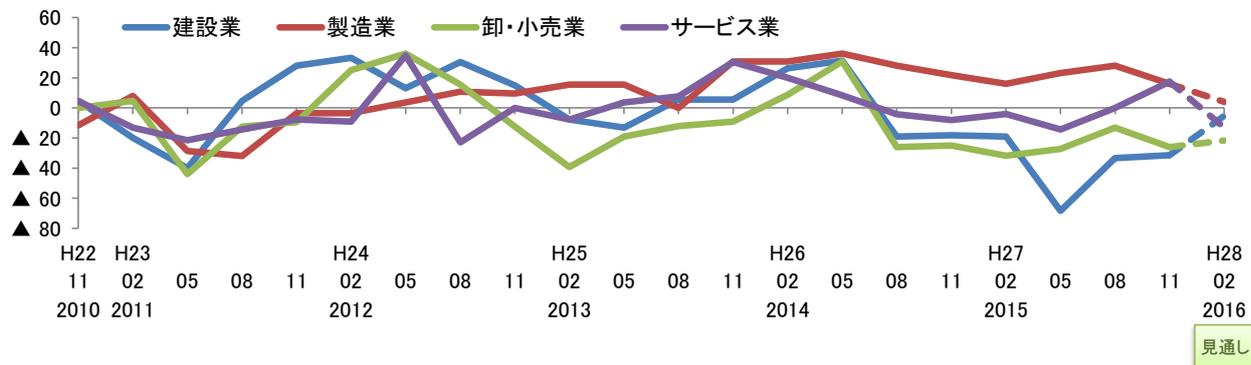
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲4.4（前回調査比 3.2 ポイント下落）と若干悪化となった。業種別にみると、製造業と卸・小売業で大幅に悪化となっている。一方で、サービス業では D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲8.9（今回調査比 4.5 ポイント下落）とさらに悪化の見込みとなっている。

図表 22 庄内飽海「自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 23 庄内飽海「業種別・自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26. 11 (n=90)	▲ 6.6	(▲ 2.2)	▲ 15.2	▲ 18.2	21.7	▲ 25.0	▲ 8.0
H 27. 02 (n=93)	▲ 8.6	(▲ 2.0)	▲ 22.2	▲ 19.1	16.0	▲ 31.8	▲ 4.0
H 27. 05 (n=88)	▲ 18.1	(▲ 9.5)	▲ 12.9	▲ 68.4	23.1	▲ 27.3	▲ 14.3
H 27. 08 (n=86)	▲ 1.2	(16.9)	▲ 20.5	▲ 33.4	28.0	▲ 13.1	0.0
H 27. 11 (n=90)	▲ 4.4	(▲ 3.2)	▲ 9.3	▲ 31.5	16.0	▲ 26.1	17.4
前回調査比	-	-	-	(1.9)	(▲ 12.0)	(▲ 13.0)	(17.4)
先行き見通し	▲ 8.9	-	-	▲ 5.3	4.0	▲ 21.7	▲ 13.1
今回調査比	(▲ 4.5)	-	-	(26.2)	(▲ 12.0)	(4.4)	(▲ 30.5)

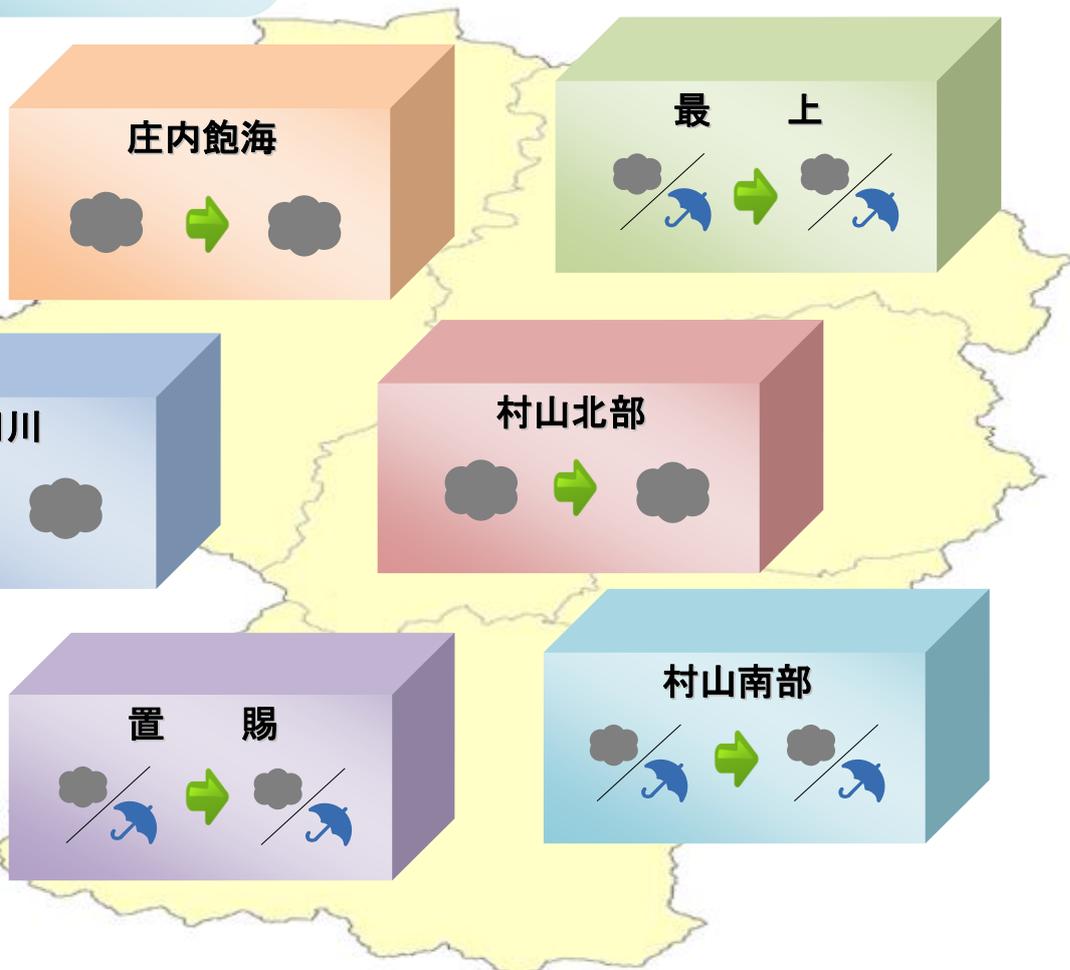
II. 景気天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$DI \geq 30$	$30 > DI \geq 10$	$10 > DI \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > DI \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > DI$

山形県

今期の業況 → 来期の見通し



今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

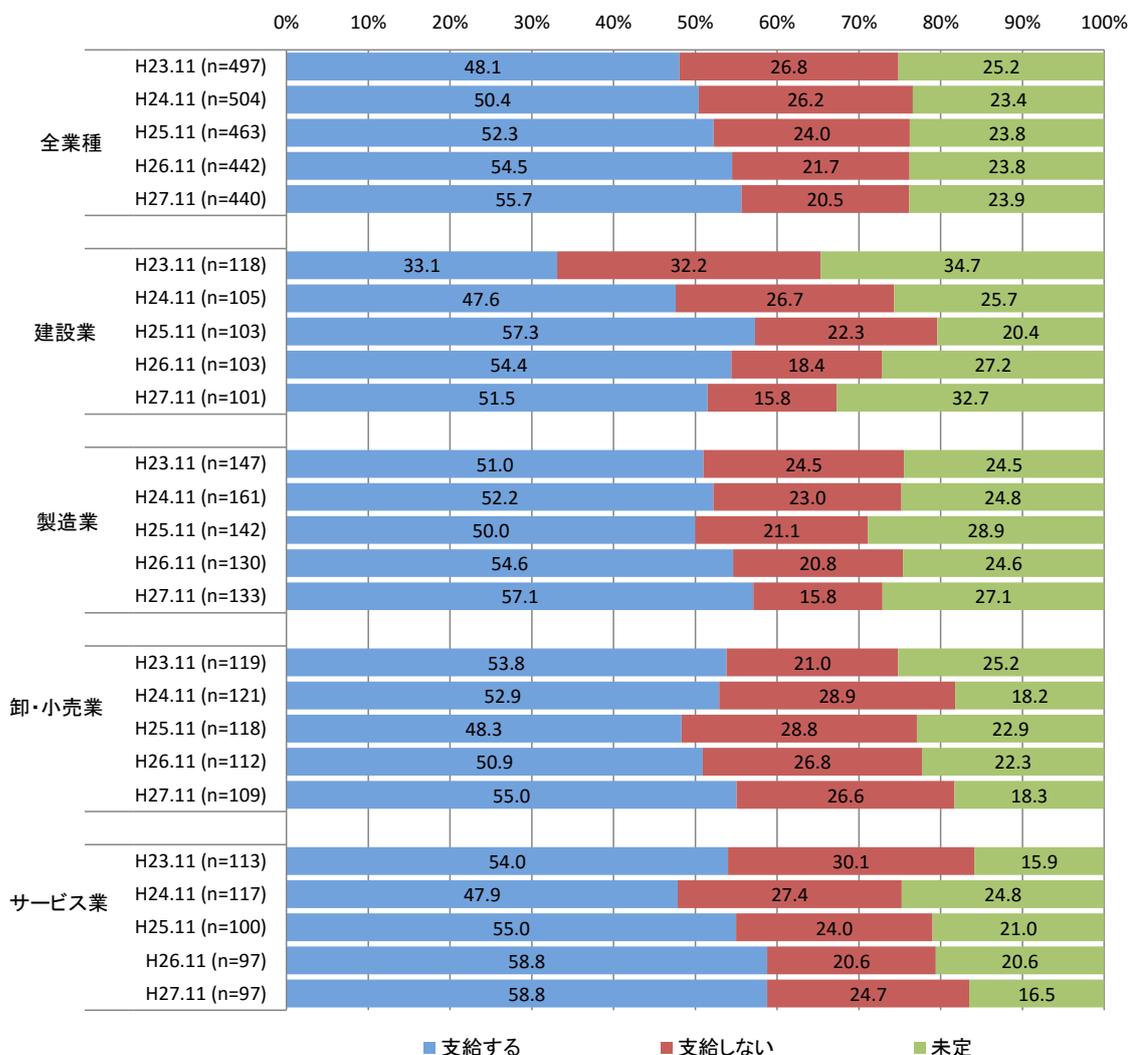
1. 冬季ボーナスについて

(1) 支給予定動向

冬季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種で見ると「支給する」と回答した企業の割合は 55.7%（前年比 1.2 ポイント上昇）と、前年に比べて若干上昇した。

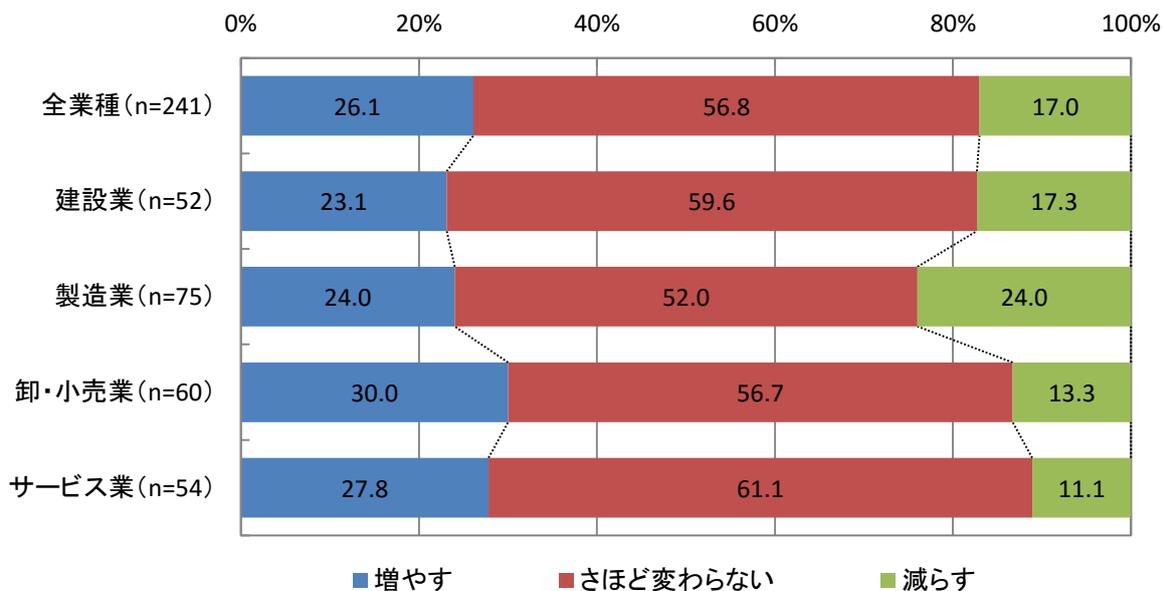
業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 51.5%（前年比 2.9 ポイント低下）、製造業が 57.1%（前年比 2.5 ポイント上昇）、卸・小売業が 55.0%（前年比 4.1 ポイント上昇）、サービス業が 58.8%（前年比±0）と、製造業、卸小売業で上昇している。建設業では 2 年連続の低下となり、公共工事の減少傾向などによる業況悪化の影響がうかがえる。

図表 24 業種別「冬季ボーナス支給動向」の推移



また、今季「支給する」と回答した企業に対し、昨年冬季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種で見ると「さほど変わらない」と回答した企業の割合が最も高く、56.8%であった。業種別にみると、製造業で「減らす」と回答した企業の割合が他の業種に比べて高く、製造業についても業況悪化の状況がうかがえる。

図表 25 業種別「冬季ボーナスを“支給する”企業の方針」



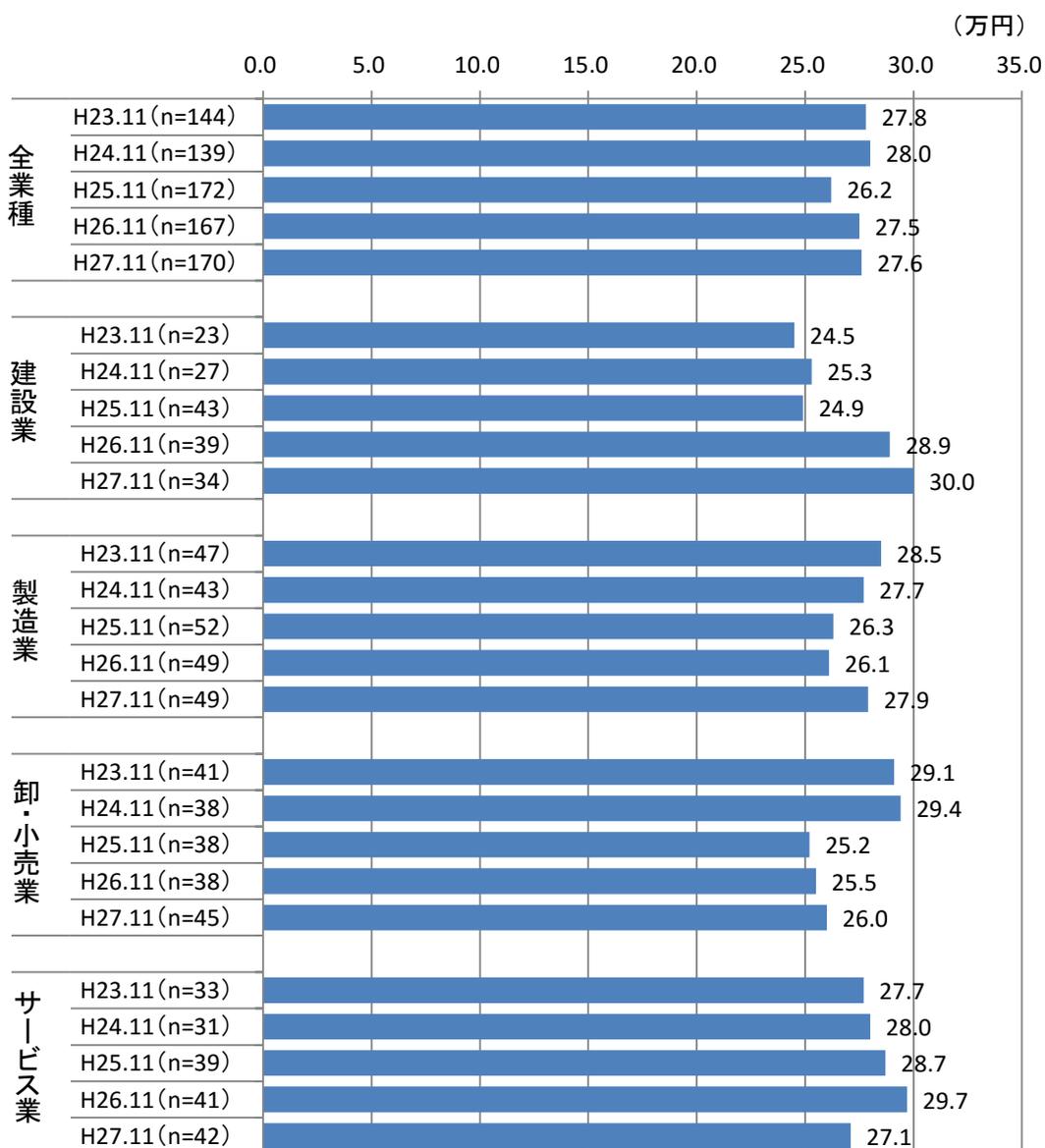
(2) 支給予定額

冬季ボーナスの支給予定額については、全業種平均で 27.6 万円となり、昨年に比べ 0.1 万円の増加となる見込みである。業種別にみると、建設業が 30.0 万円と最も高い一方、卸・小売業が 26.0 万円と最も低い。

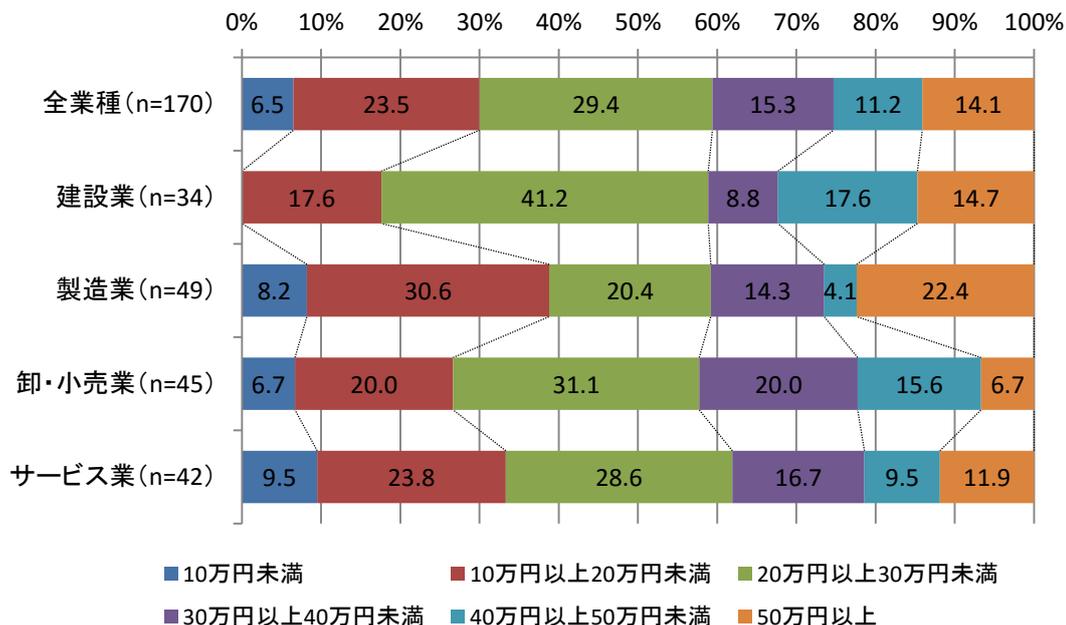
平均支給予定額は、全業種で「20 万円以上 30 万円未満」が最も多く、29.4%となっている（図表 28）。

平均支給予定月数は、全業種で「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」が最も多く、41.0%となっている（図表 29）。

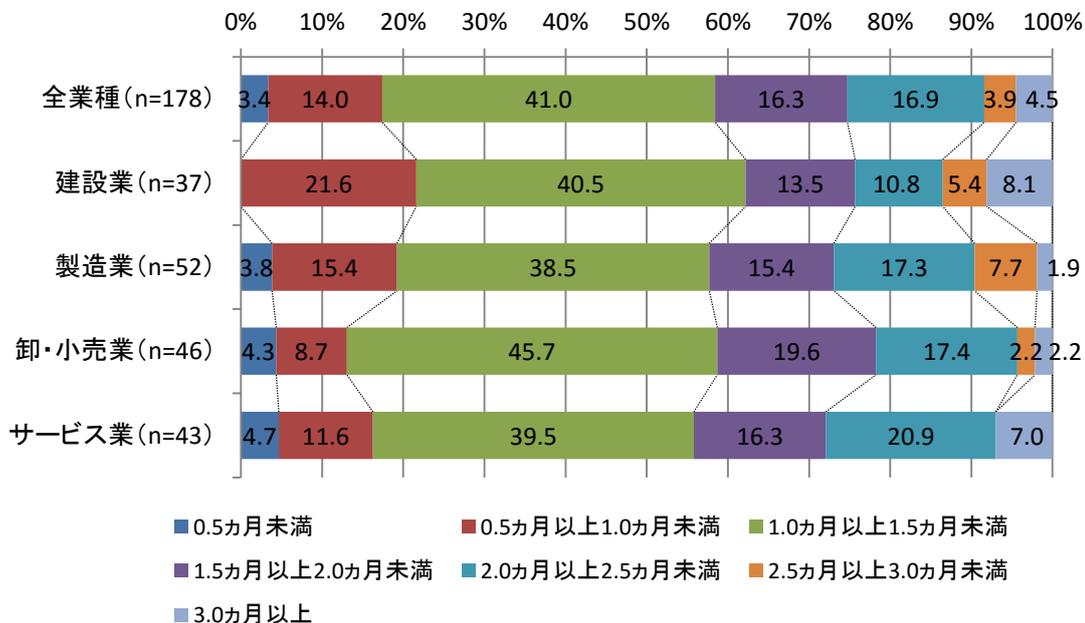
図表 26 業種別「冬季ボーナスの平均支給予定額」の推移



図表 27 業種別「冬季ボーナス平均支給予定額」



図表 28 業種別「冬季ボーナス平均支給予定月数」



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	26	35	54	55	170
村山北部	22	37	18	19	96
最上	21	19	12	18	70
置賜	23	33	27	16	99
庄内田川	31	39	30	31	131
庄内飽海	36	37	34	39	146
合計	159	200	175	178	712

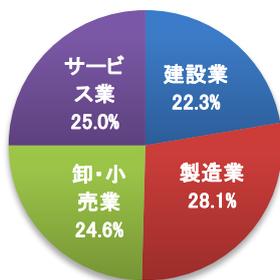
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	21	23	35	37	116
村山北部	15	24	11	10	60
最上	14	13	9	4	40
置賜	13	22	12	9	56
庄内田川	19	26	19	14	78
庄内飽海	19	25	23	23	90
合計	101	133	109	97	440

(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	80.8	65.7	64.8	67.3	68.2
村山北部	68.2	64.9	61.1	52.6	62.5
最上	66.7	68.4	75.0	22.2	57.1
置賜	56.5	66.7	44.4	56.3	56.6
庄内田川	61.3	66.7	63.3	45.2	59.5
庄内飽海	52.8	67.6	67.6	59.0	61.6
合計	63.5	66.5	62.3	54.5	61.8

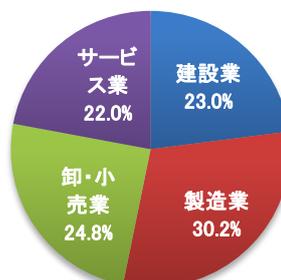
サンプル割合（業種別）



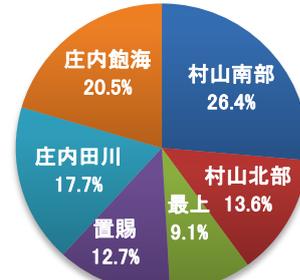
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部FAXを利用）

● 調査期間

平成 27 年 11 月 2 日（月）～13 日（金）

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について3肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ3肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況DI値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況DI値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他のDI値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちら是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (<http://www.f-ric.co.jp/>) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所

研究開発グループ 熊本 均 / 松田 美由紀

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp URL : <http://www.f-ric.co.jp/>